

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	みやぎけんせんだいにかちゅうがっこう・こうとうがっこう				②所在都道府県	宮城県
26～30	①学校名	宮城県仙台二華中学校・高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	計	総計	全校生徒を対象に実施 (平成25年度より中学校の入学者は105名)	
中学校	105	80	80	265	985		
高等学校 (普通科)	240	242	238	720			
⑥研究開発構想名	北上川、メコン川をフィールドとした世界の水問題解決への取組						
⑦研究開発の概要	<p>グローバル・リーダーに必要な適切な世界観、本質を見抜く力、共感する力、構想力、自己を相対化する力の五つの資質・能力を身につけるため、以下の取り組みを行う。</p> <p>ア 「世界の水問題」に関する課題研究</p> <p>イ 北上川とメコン川をフィールドとした調査・研究</p> <p>ウ 自律的な学習集団を形成し、多様な人びととの様々な言語活動</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>グローバル・リーダーの育成に資する課題研究を中心とした教育課程の研究開発と、課題解決に向けた国内外におけるフィールドワークや研究成果の発表を行う中で、</p> <p>I 連携先となる大学、国際機関、NPOなどの各種法人、NGO、民間企業など各種人的リソースの開拓を行い、校外との有機的な人的ネットワークを構築する。</p> <p>II 生徒の多面的な成長と変容を測る新たな指導と評価の方法に関する研究を行い、もって授業の改善に資する。</p> <p>III 他のSGH、SSH指定校のみならず、日本国内外の各学校とも広く成果を共有する。</p> <p>上記I～IIIの目的達成のため、指定期間中に以下の目標を設定する。</p> <p>I 課題研究において継続的に指導していただく大学の教員・学生の人数を20人、留学生の人数を20人、フィールドワークの際に協力していただく国内外の機関の数を20機関とする。</p> <p>II 課題研究の中で、ケースブック・メソッド (Casebook Method) や多様な言語活動を積極的にを行い、その効果について数値で検証できるようにする。</p> <p>III 生徒の課題研究の成果の発表については海外で5回、学校の研究成果の発表については国内外(校外)で5回とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>平成22年度の開校以来、本校では、真に国際社会に通じるグローバル・リーダーの育成を目標に、中高で2度にわたる海外研修や、毎年行っている姉妹校交流などの特色ある教育活動を展開してきた。また、「地球環境」を学校の探究テーマに、主に総合的な学習の時間を用いて「世界の水問題」について北上川や八幡平をフィールドに学習を深めてきた。しかし、時間数の制約、資金や人的資源の不足から、課題研究には至らず、「世界の水問題」の紹介に終始している。そこで、</p> <p>I 現実には、世界が直面する深刻な社会問題の解決に正面から取り組むこと</p> <p>II 水問題を抱える世界の現場で、困難を抱えている人々との直接の対話を踏まえて深く考察を重ねること</p> <p>III 自律的な学習集団を形成し、多様な人びとと模擬国連やケースブックスタディなどの様々な言語活動を行うこと</p> <p>で、グローバル・リーダーに必要な五つの資質・能力が身につくという仮説を立てた。</p> <p>(3) 成果の普及</p>					

		<p>① 研究開発成果 ア 研究成果報告書の作成 イ 公開研究会 ウ ホームページに定期的に公開</p> <p>② 生徒の課題研究の成果 ア 校内発表会 イ 文化祭 ウ 他校 S G H, S S H 指定校の発表会への参加 エ 海外の連携する高校, 大学, 研究機関での発表 オ 国際機関, 国際会議への提言 (最終目標)</p>
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>		<p>(1) 課題研究内容 次世代のリーダーとなる者が避けては通れない課題である「世界の水問題」について、従来の北上川に加えてメコン川をフィールドとして課題研究を行う。「世界の水問題」を「人間」、「経済」、「環境破壊・災害」の三つの視点から分析し、実際に水問題を解決する方法を探究する。例としては、「発展途上国において、きれいな水で手を洗えないときの感染症予防対策はないのか?」（人間）、「中国などのメコン川上流におけるダム建設は本当に下流域の国の水不足の原因となっているか?」（経済）、「マングローブ林の伐採により失われたものは?」（環境破壊・災害）などが挙げられる。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 連携先の東北大学の教員・学生や独立行政法人国際協力機構（JICA）から、継続的に直接生徒の課題研究の指導にあたっていただく。また、東北工業大学/JICAの現地事務所の支援を受けながら、北上川とメコン川流域の地域においても精力的に調査・研究を行う。将来的には、現地の高校、大学、専門家、民間企業、国際機関などとも連携し、総括的な水問題の理解と実践的な解決策の提案を行いたい。平成26年度については、タイとカンボジアを中心に安全確認、課題のタネ発見、教材作成、資料収集にあたる。得られた成果は、現地の高校生や専門家とも共有し、最終的には国際機関による援助に採用されることを期待している。 適宜、ケースブック・メソッドを用いた授業を行い理解の整理・深化・共有を図る。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 「総合的な学習の時間」3単位と「社会と情報」2単位を「課題研究Ⅰ」3単位、「課題研究ⅡA」3単位で代替する。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 課題研究の中で、模擬国連やケースブック・メソッドを用いた授業や多様な言語活動を積極的に行い、その効果について数値で検証できるようにする。併せて、教科学習において身に付けた基礎的・基本的な技能や知識・理解を課題研究において活用し、課題研究で身に付けた総合的な思考力・判断力や課題解決に向かう態度が教科学習の一層の活性化につながるよう指導方法を工夫する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法 ① 連携先である東北大学が主催する外国人留学生との共修プログラムに東北大生とともに参加。 ② 高校生のための模擬国連（Global Classroom）への参加</p> <p>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） 特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>特になし</p>